

地方創生SDGs金融を通じた 自律的好循環形成に向けて

地方創生SDGs金融調査・研究会



第30回地方創生SDGs金融調査・研究会 有識者会議

2024年12月25日

本日

日時

議題

第30回

2024年12月25日
13:00-15:00

先導的事例の調査・研究：西和賀町
先導的事例の調査・研究：富士宮市

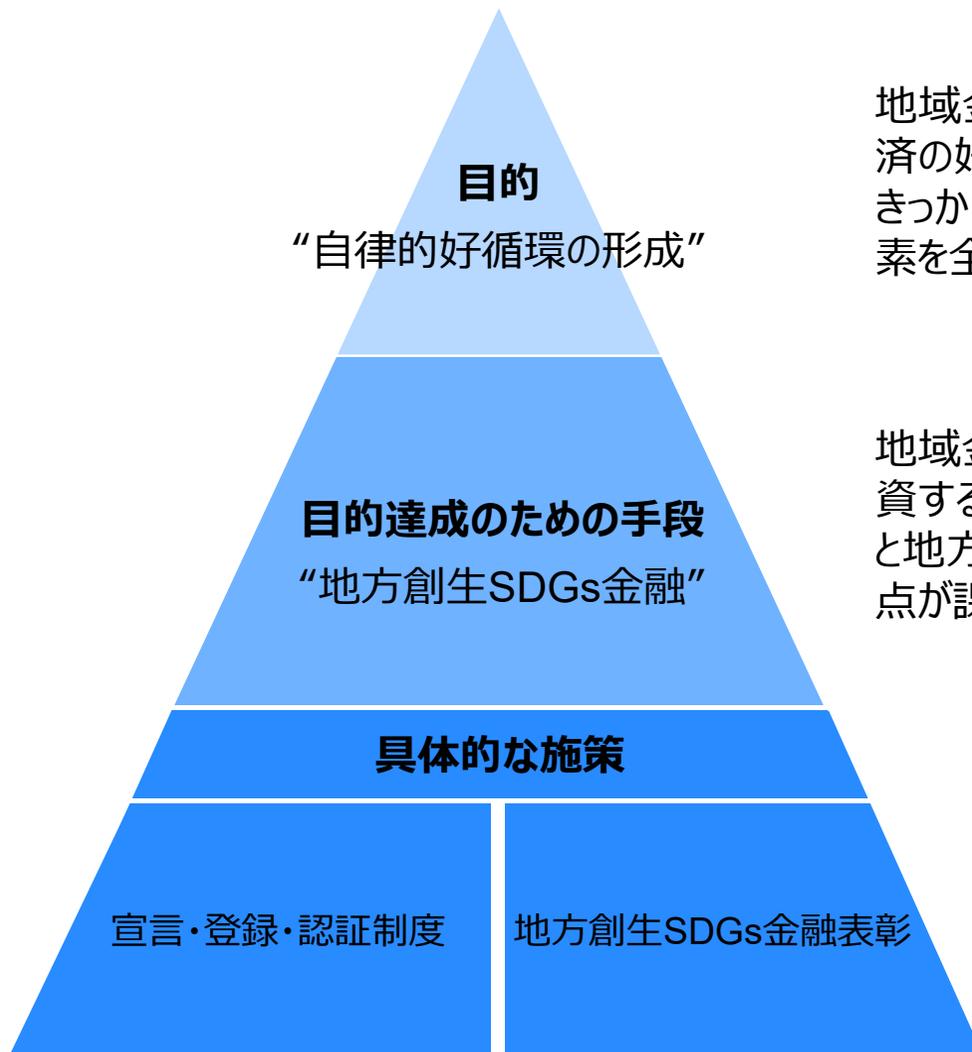
第31回

2025年1月22日

先導的事例の調査・研究：大分県
先導的事例の調査・研究：北九州市

優良事例ヒアリングを実施する背景

各委員からの質疑や議論を通じて、自律的好循環の形成の推進に向けた気付きを
発表団体から抽出することが目的。（評価ではない）



地域金融機関と地方公共団体による取組によって、地域経済の好循環を実現している団体さまにヒアリングを行い、取組のきっかけや自律的好循環への道筋を確認し、成功に向けた要素を全国に横展開したい

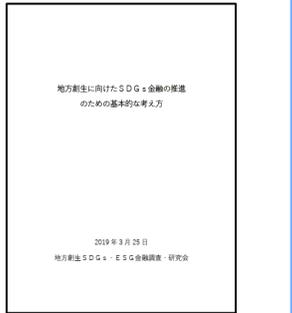
地域金融機関と地方公共団体が共同して、地域のSDGsに資する取組み事例は増えている。どうすれば、地域金融機関と地方公共団体が効果的に取組みを進められるのかという点が課題

自律的好循環形成の先導的事例の調査・研究 ー進め方について

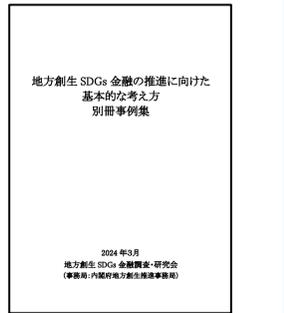
調査の目的と位置づけ

- 地方創生SDGs金融の考え方に沿う先導的な事例を調査し、またヒアリング調査による事例の実態把握を行う
- 「先導的事例」として公表し、今後各自治体・金融機関・事業者にて適宜参考としていただく

基本的な考え方



基本的な考え方 別冊



自律的好循環 形成事例

地方創生SDGs金融の全体像を総合的に説明したものが、「地方創生に向けたSDGs金融の推進のための基本的な考え方」。こちらの参考事例として自律的好循環の形成に向かっている事例を調査し、ヒアリングを通じて先導的な事例としての示唆を抽出する

参考：昨年度のヒアリング結果

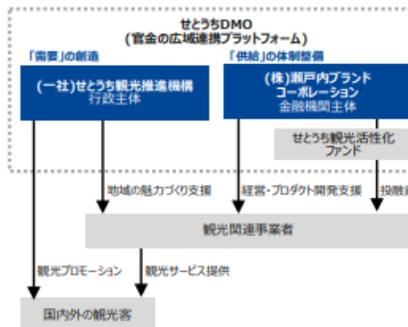
取組プロセス



主な特徴

- ✓ 広島県知事の「海の道構想」がきっかけとなり、瀬戸内観光活性化の動きが始動
- ✓ 瀬戸内エリアの観光資源を活用し、エリア一体で観光地としての魅力を高め、観光客数及び旅行消費額を増やすことを目指した
- ✓ 瀬戸内7県及び地域金融機関が主体となり「せとうちDMO」を構築し、「せとうちエリアにおける観光需要の創成」及び「洗練された観光サービスの供給」を両輪で実施
- ✓ 行政主体のせとうち観光推進機構が規制緩和等の行政対応が必要な事案のとりまとめやプロモーションを行い、金融機関主体の瀬戸内ブランドコーポレーションが観光サービスの整備や、観光関連事業者のプロダクト開発、事業支援を行っている
- ✓ 各地域金融機関の地方創生部署とも連携しながら、新たな観光コンテンツや宿泊施設等、瀬戸内エリアに様々な観光サービスを開発
- ✓ 観光需要をいかに取り込むかという競争環境を地域間に築くことで、エリア全体の活性化を加速
- ✓ 得られた収益をさらなる観光事業者に再投資したり、海外資本も呼び込むことで、エリア全体の観光市場を拡大
- ✓ 「地域とともに創る」ことを目指し、重要KGIに住民満足度を掲げ、定期的に地域住民アンケートを実施し、地域に還元できているかのモニタリングを行っている

取組体制の全体像



取組による成果・効果

- 瀬戸内7県における旅行消費額は、2014年は約1.1兆円であったが、2019年には年間2兆円まで増加
- 域内における新たな観光事業者が生まれたことにより、雇用を創出
- アメリカのTIME誌にて、瀬戸内の島々が「世界の最も素晴らしい場所」50選に選出されるなど、世界でも評価されている



ユキノチカラ

西和賀デザインプロジェクト

Nishiwaga Design Project

写真：ユキノチカラプロジェクト協議会



議事2：富士宮市における先導的事例の調査・研究



写真：富士の国乳業



静岡銀行